

巻頭言



ノジュール

両沼小学校長会 副会長 冠木 誠
(会津坂下町立坂下南小学校)

私は、学生時代に鉱物学で卒業論文を書きました。地学の人間は、のべつフィールドワークです。ハンマーを手に山中を歩き回る生活でした。この経験は今の仕事に何も役立っていません！？

一つだけ私の心の深いところに残っていること、それがタイトルの「ノジュール」です。



私は、残念ながらこんなに美しいノジュールに出会ったことはありません。地学をやっている人がこれを見つけたら、ワクワクしながらハンマーで割ります。すると、こんなのが出たりします。



ノジュールができるメカニズムは、

- ① 生物が埋まる。
- ② 埋まった生物が化石化する。
- ③ 化石の入った地層が地表に出る。
- ④ 周囲が風化してノジュールが残る。

化石化する過程で、生物の炭素がケイ素に置き換わったりするので、化石の周囲は他の場所よりも固くなり、風化に耐えてノジュールだけ地層から出てくるわけです。

これを、コロナに振り回されている自分と重ねてみます。何万何億年と姿をとどめて、周囲が風化しても頑として形を変えないノジュールのような信念は、私にあるのか…？次々と起こる事態への対応に精一杯で、学校経営に確固たる芯を持ってないでしょ…？

ノジュールのような信念は、決して思い込みや独りよがりであってはなりません。一方から見ただけの真実というのもNGです。いつの時代も揺るがないのが理想です。教育に関して言えば、「不易」でしょうか。

再び自分を省みると、なんと信念のあやふやなこと…。私は校長ですなどと言える中身かどうか、たくさん「？」が付きます。この年になっても、ついに自分の信念などどこぞかしいものは作れませんでし。「迷ったら、子どもに聞け。」「子どもためになる方が正解。」この2つ考えるのが精一杯です。

で、お前には信念があるか？さっぱり分かりません。未だに理想のノジュールにはほど遠い、やっこい信念の話でした。

新任校長として

新任校長として

柳津町立西山小学校 猪野 典由

毎朝、校門近くに立ち、子どもたちを迎えるのが1日のスタートです。学校の周りは豊かな自然環境に恵まれ、清々しい空気が満ちています。全校児童18名と「おはようございます」と声を交わしながら、全校生の様子を確認すると同時に、全員そろって登校できていることのありがたさを噛みしめます。

今年度は、どの学校でもそうであるように、コロナ対応に追われたスタートになりました。子どもたちの活躍の場となるはずだった様々な行事ができないのはとても心苦しい思いでしたが、「安心・安全」を第一と考え決断してきました。町教委や両沼地区の校長先生方から頂いたご助言は、新任校長の私にとって、とても心強いものでした。また、臨時休業中は、学校のタブレットを使い、全家庭とオンラインでつながることができました。友達と会えない日が続いた中、初めて学級全員の顔が画面に映し出された時の、子どもたちの嬉しそうな顔は、忘れることができません。

6月に行われた所長訪問の際、「少人数だからこそできることを」とご指導をいただきました。「Withコロナの時代」と言われる中、「西山小だからこそできること」を考え、感染予防に努めながら、本校ならではの教育活動を進めていきたいと計画しています。

本校にはPTA賛助会員という制度があり、地域の方々も奉仕活動等に積極的に協力していただいています。地域全体で子どもたちを育て、温かく見守ってくださっていることを強く感じます。これまでの伝統を守り、これからも「地域とともにある西山小」であるように努めていきたいと思っています。今後も、本支会の校長先生方には、大変お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

当たり前の大切さを忘れずに

金山町立横田小学校 河野 公寿

毎朝、学校から4～500m歩き、登校する児童を迎えに行き、地域の方々に挨拶をしながら、子どもたちと一緒に学校に向かいます。道のすぐ近くを只見川が流れ、時には川霧が立ち込める幻想的な景色も見ることができます。全校児童13名、職員9名と、とても小規模な学校ですが、横田小学校に赴任できたことを心からうれしく思います。

1学期が始まって早々に、コロナ関連の対応や臨時休業中の子どもたちのサポート、学校行事等の中止や延期、夏休み期間の短縮など、これまでに経験したことのない状況が続く中、町教育委員会や町内の小中学校と連携し、職員と協力しながら教育活動を進めてきました。今後も予断を許さない状況が続きますが、子どもたちが安心安全に学べる環境づくりに努めていきたいと思っています。

コロナ禍の中、毎朝子どもたちが学校に登校し、子どもたちと一緒に授業ができる、この当たり前の状況が、いかに恵まれたものであるか、その大切さを忘れてはいけないと思います。少人数のよさを生かし、職員や保護者、そして、地域の方々の協力を得ながら、本校の教育目標「心身ともに健康で自ら学ぶ子どもの育成」を具現化できるよう、そして、コロナに負けず、子どもたちの楽しげな声が響く横田小学校になるよう、子どもたちの育成に取り組んでいきたいと思っています。



新任校長として

出会い考

昭和村立昭和小学校 安藤 裕明

総会での新入会員自己紹介の中で、「私の初任校は高田小学校です。ここ（高田小図書室）の掛け軸や振り子時計は当時のままで、大変懐かしく感じたところであります。新任校長として、最初の挨拶の場が初任校であることは、『初心を忘れるな』というメッセージのように感じます」とご挨拶をさせていただきました。

初任校での4年間は学ぶことが多く、毎日があっという間でした。校内での初任者研修は、床の上にカーペット1枚が敷いてあるだけで座布団もない物置で、指導教官と私が向かい合って正座で行う、言わば寺子屋スタイルでした。そこで「私より先に週案を出してはいけません。私より後に週案を出してはいけません」と目は決して笑っていない満面の笑顔で、常々指導されたことを思い出しました。その成果か、理不尽なことや足の痺れを我慢することには、かなりの自信があります。

さて、私たちは「辞令」と呼ばれる紙一枚であちらの学校、こちらの学校と赴任しなければなりません。異動先の子どもたち、先生方、地域や保護者の方々との出会いは自分では全く選ぶことができません。その方々とは、言わば「選べない出会い」をさせていただくことになります。

初任地である両沼地区に新任校長として赴任し、出会いについても考える機会がもてました。昭和小の子どもたち、そして多くの人との「選べない出会い」を、この校長と出会えてよかったとあっていただき、そして私自身も、この方々と出会えてよかったと思えるような「選んだ以上の出会い」にできるよう、地域と共にある学校づくりをしていく覚悟です。どうぞよろしくお願いいたします。

学校経営

学校経営とは

柳津町立柳津小学校 星 潔

学校経営に関することを記述することになり、改めて意味を調べてみました。日本大百科全書によると、「組織体として存在する学校の維持・発展を図り、学校教育本来の目的を効果的、効率的に達成させる統括作用。校長はその役割を担う主経営者である。」と書いてありました。

自分の学校経営において、この言葉の意味とリンクすることは3つです。1つ目は「発展」です。変化の激しいこの時代では、やはり発展は欠かすことができないと思います。時代を読み、先々の変化を見つめ、常に何が自校の実態にとって最良の方策かを見極め、実行することができるようにいつも考えています。

2つ目は「統括」です。まさに「チーム学校」です。チーム学校の中で、「ばらばらのものを一つにまとめる」統括が校長の大切な役目だと思います。同じベクトルで、同じ方向を見つめ、同じ目標に向かって取り組むためにチームの一員としてのモチベーションを高めることができる言葉かけを考え、実行するようにしています。

3つ目は「主経営者」です。企業においては経営者の判断ミスが倒産など会社の存続に大きな影響を与えます。情報の収集、教頭先生との連携、児童や職員の現状の把握などを的確に正確に行い、正しい判断をするために、コミュニケーションに重点を置いています。

両沼の校長先生方との連携を大切にしながら、自分の理想とする学校である活気あふれる学校づくり、笑顔あふれる学校づくりに向けて、これからも日々「校長室」で戦略を練り続けたいと思います。

教育随想・所感

「元のようににはもどれない」

会津美里町立宮川小学校 石見 勝則

変革の時代と言われ続けて、もう何年になるのでしょうか。もう毎年毎年が変化しているのですが、今年は新型コロナで最大級の変化が求められたように思います。

そんな中でもついつい私たちは「元のように」ということを前提に考えがちです。（自分の体だって若い頃には戻らないのに…）いやいや過去がそんなに素晴らしいものではないということを認識しつつも、どうしてもノスタルジーがあるのでしょうか。

数年前にとある教育長にこんなことを言われました。「あなたたちが出している宿題って30年前も同じような宿題を出していなかったか？計算ドリルなんてやってるようだけど、それって本当に効果があるのかね？確かめてみたことはあるの？別の方法は考えてみた？先生が考えないようじゃ、子どもには思考力はつかないぞ。」と。日本人的な発想で、同調性が強いから、みんながやっているからという理由だけでドリルを宿題として出していることが多いのではないのでしょうか。30年前の子どもと、これから10年先の子どもたちと同じと考えていいものなのだろうか。本当に10年後に必要なものは何なのかを考えていかなければいけないでしょう。それととともに10年後の自分自身も模索しなければいけませんね。

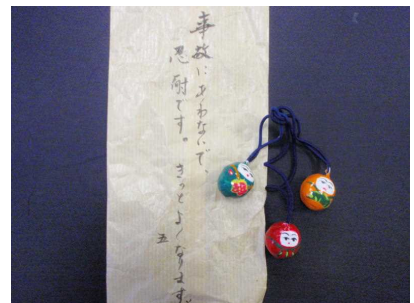
教育は過去に戻るのではなく、未来を見通すものでありたいです。その意味でも今年はチャンスです。攻めていきましょう。

「一期一会 校長として」

金山町立金山小学校 田中 純

先日猛暑の空気がまだ残る夕暮れ時に、ひぐらしの声を聞きながら退勤しようと机上整理をしていました。すると電話が鳴り教頭先生が「若松の〇〇〇という方から校長先生に電話が入っています。」と取り次いでくれました。その御名前を聞いてすぐにお顔が浮かびました。本務者となって今年で33年目になる私ですが、大学卒業後すぐに河東第三小学校の講師（第4学年担任）として一年間勤務いたしました。その学校でお仕えした校長先生からの電話でした。「元気で頑張っつかよ。先生いくつになった？父ちゃん、母ちゃん元気がよ？金山小は、子ども何人になった？横田小は何人だよ？」など、当時と変わらず穏やかにゆっくりと話される校長先生の声でした。34年間、毎年年賀状のやりとりを続けてきましたが、私が転勤するたびに一度も欠かすことなく、勤務先にお電話をくださるのです。大学卒業したての講師をずっと気にかけて見守ってくださったことに感謝しかありません。校長となった今、私は職員に対してどのような思いで接しているだろうか。今、ともに働く職員一人一人との出会いを大切にしていきたいと改めて考えさせられました。

だるま作りが得意な校長先生。現在91歳、どうぞお元気で。ありがとうございました。



【採用の時にいただいたお守りダルマ】

諸団体活動から

コロナ対応をとおして

湯川村立箕川小学校 高原 昇

本来ですと、ここでは今年度のJRCの活動についてご報告することになっておりましたが、新型コロナウイルス感染防止のため全て中止となりました。そこで、学校でコロナ対応をしている中で感じたことを感じたままに書かせていただきます。

2学期に入って、とうとう会津地域から感染者が出てしまいました。いずれは出ると予想はしていたものの、実際出してしまうと少なからず恐怖を感じます。そこで、学校でも子ども達に「新しい生活様式」を徹底し、一人一人が自ら考えて感染予防するよう指導しました。ただ、感染予防以上に力を入れて指導したのが、「感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷を絶対に許さない。」ということ、つまり「コロナ差別」についてです。今や新型コロナウイルス対応は、人権問題へと発展しているように感じます。事実、新聞、テレビで毎日感染者の報告がありますが、決まって「コロナ差別」について言及されています。

そんなニュースを聞いていると何故か、9年前の東日本大震災を思い出してしまいます。震災から3年後、当時私が勤務していた学校では、県から指定を受け「放射線教育」の研究をしていました。その時も、放射線に関連した差別、いじめが問題視され、行きついたのはやはり、人権問題でした。

「放射線による差別」も「コロナ差別」も、見えない恐怖がもたらした結果である、と言われています。だからと言って決して許されることではありません。どんな境遇に面しても常に正しい判断、行動ができる、そんな人を我々は育てていかなければいけない。まずは、「目の前の子ども達から」を合い言葉に頑張っていくことを強く誓いました。

“本校の特別支援教育”

会津美里町立新鶴小学校 山内 徹

本来ですと両沼地区特別支援教育研究会の会長として原稿を書くところですが、ご存じのように新型コロナウイルスにより活動を停止しているところです。そこで、本校の自慢である特別支援教育について述べたいと思います。

本校では昨年度情緒学級「きらり学級」が新設され、知的学級「のぞみ学級」と合わせて2つの特別支援学級があります。どちらの学級も素晴らしい教育実践がなされ、保護者からも絶対的信頼を得ています。子どもの自立に向けた支援をするという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援が行われています。

通常学級に在籍している子どもたちのための通級指導教室「かがやき教室」もあります。苦手なことや困難なことがある子ども一人一人の課題の改善を図っています。この通級指導教室で学習したことを学級の中で実践できることを目指しています。担当の先生が本校に来校し、週に1時間程度の指導を個別に行っています。本来は、通級指導教室がある学校に通って指導を受けますが、会津美里町は地域が広いということで、県内でも先駆けて「巡回型」をとっています。

このように本校では充実した特別支援教育が実践されています。

人は皆ちがいがあり、成長も人それぞれです。それを個性と認め、一緒によりよく生活していくのが私たちの社会です。一人一人に合った学習形態で学ぶことが子どもたちのよりよい成長につながるということ、「みんなちがって、みんないい」という「ちがいを認める人間としての幅の広さを育んでいくことが大切だと思っています。

町村だより

「会津美里町だより」

会津美里町立高田小学校 金成 和彦

会津美里町は、高田梅やおたね人参など特徴的な農産物や「会津」発祥の起源に由来する伊佐須美神社、東北最古の焼き物として知られる会津本郷焼や、野口英世博士ゆかりの中田観音などの由緒ある神社仏閣などがあり古い歴史と美しい自然に恵まれた町です。

今号は「天海大僧正(慈眼大師)」について説明します。※会津美里町のイメージキャラクター「あいづじげん」は慈眼大師の「慈悲の心を持って世の中を見る目」の意味にあやかろうと名づけられました。

天海大僧正は、戦国時代から江戸初期にかけて、中央で活躍した天台宗の名僧です。

陸奥国大沼郡高田の出身で、父はこの地の土豪・舟木景光、母は会津領主輩名氏に関係があります。

幼い頃に天台宗の龍興寺で得度したのち、各地を遍歴して修学を重ねました。

会津を治めた輩名氏に始まり、武田信玄、徳川家康・秀忠・家光に仕え、特に徳川三代には、政治的・宗教的な支えとなってきた人物です。

焼失した比叡山の復興再建や日光東照宮の造営などに尽力しました。

天海大僧正は、1536年に生まれ、1643年まで生きたそうですので、108歳でした。没した後、彼の功績が称えられ、朝廷から「慈眼大師」の名を与えられたそうです。

今号は、「天海大僧正」について、紹介しましたが、会津美里町には、もっともっと紹介したい場所もたくさんあります。

編集後記

残暑が続いていましたが、急に肌寒くなりました。「暑さ寒さも彼岸まで」とは、よく言ったものです。野山の紅葉が楽しみな季節を迎えました。

さて、お陰様をもちまして『広報両沼』第133号を皆様にお届けすることができました。「巻頭言」をお寄せいただいた冠木誠副会長様をはじめとして、原稿をお寄せいただいた各先生方には、ご多用の中でのご執筆、誠にありがとうございます。改めて紙面をお借りして御礼申し上げます。

教育関係諸団体におかれましては、新型コロナウイルス禍の中でやむなく事業中止としたり、感染拡大防止対策に苦慮したりながら事業を展開されたりと、各校の教育活動推進に加えて大変な日々を過ごされたことと存じます。改めて、組織の長としての判断の重さを実感させられる毎日です。今後も、気を緩めることができない状況が続きますが、両沼校長会での情報交換や助言・励ましを大切に、乗り越えていきたいと存じます。

各校では、学習発表会等の行事の判断準備に忙しい毎日を迎えていることと存じます。令和3年度の教育課程編成も迫っています。校長として、コロナ禍を踏まえた早めの方針等を示さなければと心の準備をしているところです。各校長先生におかれましては、お忙しい時期を迎えますので、お体にご自愛ください。

令和2年10月13日

両沼小学校長会広報部第133号担当
三島小学校 藤田 雅也